

戦略的大学連携支援事業（文部科学省補助金）
「ユニバーサルコミュニケーションのための教養教育に向けた千葉圏域コンソーシアム」

千葉大学普遍教育センター、神田外語大学、敬愛大学、城西国際大学

コンソーシアム支援委員会報 No.1 (2009年4月17日)

【目的と概要】

国際化の一層の進展とバリアフリー社会の深化がめざされる21世紀の共生社会において、世界の言語・文化についての幅広い知識と開かれたコミュニケーション能力・教養をもつ学生を育成することは、現代の大学の大切な責務である。四大学はそれぞれの特色を生かして連携し、新時代にふさわしい教養教育にむけて、FD実践に裏付けられた体系的カリキュラムを構築する。さらに生涯教育へ応用的に展開し、地域の公共性実現にも貢献する。

【本学の取り組み】①②③

具体的には、まず①内外における教養教育の実情を調査・研究して国際化教育に有効な教養教育のカリキュラムを構築する。また、4大学間の将来における教養科目の共有化をめざして、②自律学習、また遠隔教育を可能とするeラーニング教育システムの基盤整備、試験的導入を行う。さらにこうした③ICTを利用した教育のFD技法を学び、研究する。

【本学の運営体制】

- (1) **運営協議会**：コンソーシアム全体の活動と方針を協議する（運営協議会委員 / 高田・事務部門 / 薬師寺）
- (2) **コンソーシアム支援委員会**：運営協議会委員を委員長として、学長に委嘱された支援委員およびコンソーシアム業務に集中する特任教員で構成する。
（委嘱委員/敬称略 <教員>高田(洋)・高橋(和)・飯野・矢澤・櫛田・矢澤(達)・畑中
<事務局>薬師寺・倉本・安岡・綱淵 <特任教員>望月・石橋)
- (3) コンソーシアム支援委員会は定期的に会合を開催し、運営協議会における決定事項を実現するために活動し、予算執行の協議などを行う。
- (4) 運営協議会並びにコンソーシアム支援委員会における審議・活動の内容は、両学部の教授会にすみやかに伝達され、大学全体として目標の達成に邁進する。

【2008年度後期の成果】

- ① 四大学間の連携環境が整備され、相互理解を深めることができた。
運営協議会(No.1～4)を各大学の持ち回りで開催し、実情視察と意見交換を積み重ねた。
- ② 履修科目を共有化するための基盤となる単位互換協定を千葉大学と締結した。
3月30日に4大学の学長が同席し、敬愛大学は千葉大学との単位互換協定を締結した。
09年度前期に両大学の教務部は具体的な実施方法の詳細を協議の上で完成させて、09年度後期からの実施をめざすこととなった。
- ③ eラーニング教育のシステム購入、ICT活用の基盤整備に向けて準備した。

メディア教育開発センターの協力を得て、システムを選定・購入した。e ラーニング教育のFD、מודול講習会などを実施。ICTを活用した授業づくりの講習会等にも参加。

④ 21世紀的教養教育、e ラーニング教育に関する先進的事例を国内視察から学んだ。
立命館アジア太平洋大学（高田・佐久間）、龍谷大学（矢澤達）、熊本大学（櫛田・綱淵）、岐阜大学（畑中・石橋）、武蔵大学（飯野）などを視察し、結果を持ち寄って、コンソーシアム委員会で報告した。

⑤ 特任教員の公募・採用

2月9日より3名の業務開始 業務環境の整備を行った。本年度から半期2名の体制で行く。（主な担当：望月→e ラーニング、石橋→留学生教育、壁谷→単位互換協定）

⑥ コンソーシアムFDの開催（国際学部）

第1回FD 09年2月17日（火）午前11:00～12:00 国際学部

講師：メディア教育開発センター 小野博教授

「オンライン学習大学ネットワーク(UPO-NET)の設立と展開」

第2回FD 09年度3月17日（火）国際学部

講師：特任教員「מודול利用についての説明会（実演付き）」

e ラーニング教育に関するアンケート用紙配布

⑦ 広報活動

- ・コンソーシアム本部（千葉大学）のホームページ開設と敬愛大学の紹介 08年11月
- ・敬愛大学ホームページへのコンソーシアム関連活動の紹介 HP 立ち上げ 09年2～3月
- ・文部科学省主催合同フォーラム：ポスターセッションへの参加 09年1月11日

⑧ 評価諮問委員会の開催 09年3月4日 1:00～ 千葉大学にて開催

同日に運営協議会（No.5）を開催

⑨ コンソーシアム支援委員会の開催

第1回 1月8日

第2回 3月2日

【次年度以降の計画】

・2009年度

「ユニバーサルコミュニケーション教養教育に関するカリキュラム/コンテンツの開発」

（1）手話教育の試行 担当：城西国際大学

（2）国際文化理解のための教育コンテンツ 授業方法の検討 担当：敬愛大学

（3）ICTを活用したFDの方法 ほか

・2010年度

「ユニバーサルコミュニケーション教養教育に関する統一カリキュラムの試行」

（1）開放されたカリキュラムを共有科目として試験的に導入

（2）大学横断的FDの実施

（3）派生するシーズを生涯教育・社会人教育に展開する方策の検討ほか （以上高田記）